事例No.	2791
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	新潟県燕市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成 ・教育・子育て

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

高校生がまちでのあそびから学ぶ「まちあそび」

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



高校生がまちでのあそびから学ぶ「まちあそび」

新潟県燕市（つばめし）

DATA

事　例　名：つばめ若者会議-燕市役所まちあそび部-
所　在　地：新潟県燕市吉田西太田1934番地
連　絡　先：TEL 0256-77-8364
　　FAX 0256-77-8305
　　E-mail chiiki@city.tsubame.lg.jp
ホームページ：https://tsubame-wakamono.com/

取組の概要

燕市では平成25年から若者が主体となったまちづくり事業「つばめ若者会議」を実施している。令和2年からは高校生を対象に「燕市役所まちあそび部」を開始。「若者がまちに関わる」新たな視点として、まちの「人」と「資源」を使った「まちあそび」を実践している。「まちあそび」を通して地域への愛着度の向上を目的に、高校生のアイディアから、地元農家との野菜収穫とカレーづくり、市内菓子店とのスイーツづくりなど、さまざまな活動を実践している。

評価された点

- 高校生がまちづくりに関わるきっかけを「あそび」の観点から創出し、イノベーションにつながるきっかけを生む場と関係を創出している点を評価。
- 若者に押し付けるまちづくりではなく、若者自身が楽しむ場を創出し、地域の大人も協働している点を評価。
- 若者にまちづくりの当事者として意識させる取り組みであり、他の自治体にもヒントになるものである。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ①
若者をターゲットにしたまちづくり事業「つばめ若者会議」のスタート。



・30 ～ 40代の若者を中心に75名が参画。

・20代の若者をターゲットにしたプロジェクトを企画。

2014年～

アクションプランの実行
・1年間の活動成果として「つばめの幸福論2013」を作成。「しあわせな人をふやすまち」を将来像に掲げ、自主的なアクションがスタート。



・メンバーの減少及び固定化。

・登録メンバー数の増加。

2016年～

・単独の事業開催が多く、協働事業があまりなかった。

燕ジョイ活動部プロジェクトの開始
・「まちづくりを楽しみながら学ぶ」をコンセプトに大学生や20代の若者をターゲットにスタート。



きっかけ② 2019年
新規プロジェクトの企画
高校生をターゲットに“まちあそび”という新たな視点で、市民協働型の地域づくりプロジェクトを慶應大特任准教授の若新雄純氏と共に企画。

・市内高校への出前授業や相談会等を実施。

・コロナ禍であり単独の事業開催が多く、協働事業が少なかった。

2020年～

高校生プロジェクト燕市役所まちあそび部の開始
・新たな視点のまちづくり「まちあそび」を実施。
（ラジオ番組制作、スイーツづくり、地域団体とのスポーツイベント、企業とのコラボレーション企画、若手農家のPR企画、国交省とのコラボ企画など）
・プロジェクト初期メンバー 26名が加入。

2022年～

燕市役所まちあそび部3年目スタート
・活動体験をしてもらう「まちあそび学会」を開催。
・まちの人とともに「まちあそび」を実践。



今後の展望
・まちあそびを通じた地域への愛着を育む人材育成。
・まちあそびの魅力を発信し、燕市のプロモーションにつなげる。
・同様の取り組みを行う他団体との連携。

受賞者のコメント

燕市役所まちあそび部は、遊びを通じた活動で多くの学びを得ることができる人材育成の場であると考えています。高校生はまちを使って遊ぶ中でさまざまな経験を積み、普段の学校生活以上に「つながりの輪」を広げています。未来を担う高校生が自由な発想で、やってみたいことをまちの人とともに遊んでみることで、少しずつまちを好きになっていくのではないかと思います。これからも、高校生のわくわくすることを一緒に楽しみながらサポートしていきたいです。